

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【北海道羽幌町】

実施報告書
(概要版)



北海道羽幌について

羽幌町は、北海道北部の日本海側、留萌管内のほぼ中央に位置し、沖合いには、天売島と焼尻島のふたつの島を有する町です。

天売島は、人と海鳥が共生する島、焼尻島は緑と花の島で、「暑寒別天売焼尻国定公園」に指定されています。

日本一の漁獲量を誇る甘えび、ウニといった海産物、グリーンアスパラやねばりながいもなどの農産物、潮風を受け豊富なミネラルを含んだ牧草を食べて育った焼尻めん羊など、豊富な資源に恵まれた自然豊かな町です。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月5日午前9時に、北海道北西沖を震源とするM7.8の大規模な地震が発生、羽幌町では震度6強を記録。地震発生直後から大津波警報が発表され、羽幌の沿岸地域では、最大4.4mの津波が押し寄せ、家屋流出や浸水等の被害が発生した。羽幌町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し消防スピーカー等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成28年11月5日（土）09：00～12：00

シェイクアウト訓練、津波避難訓練	09：00～09：40
情報伝達・避難誘導	09：00～09：40
防災関連装備品等の展示	10：00～11：50
防災講話	10：10～11：00
炊き出し訓練	11：00～11：50
訓練講評・閉会式	11：50～12：00

■主催：内閣府、北海道、羽幌町

■参加者数：約1,400名（※防災関係機関等を含む）

■参加機関：町内会、气象台、海上保安庁、陸上自衛隊、警察、消防、羽幌消防団、羽幌町赤十字奉仕団、羽幌町防災ボランティアきずなの会、NTTドコモ北海道支社、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社ムラカミ

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

町内全域において、自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練、川北・浜町・港町・川南の津波浸水予想地域で、「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた緊急指定避難場所までの津波避難訓練を行い、発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:00～ 防災関連装備品等の展示

羽幌中央公民館において、関係機関が、災害対処用の車両や装備品を展示・説明し、館内では、防災関連企業による防災用品等の展示・紹介及び警察や気象台が写真・パネル展示を実施して、訓練参加者は見学により新たな知識の向上を図った。

▼車両等の展示



▼企業展示ブース



10:10～ 防災講話

羽幌中央公民館大ホールにおいて、旭川地方気象台及び防災コンサルによる地震・津波の概要及び避難所での生活等について講話を実施するとともに、研修室において、北海道庁により子供向けに地震・津波について教育するなど、住民の防災意識高揚を図った。

▼気象台講話



▼子供向け防災講話



11:00～ 炊き出し訓練

羽幌中央公民館において、陸上自衛隊がカレーライスを調理して、日赤奉仕団が配膳・配食を行い、その連携要領を確認するとともに、訓練参加者に配食し、災害時の炊き出し訓練として、体験喫食した。

▼炊き出し配食



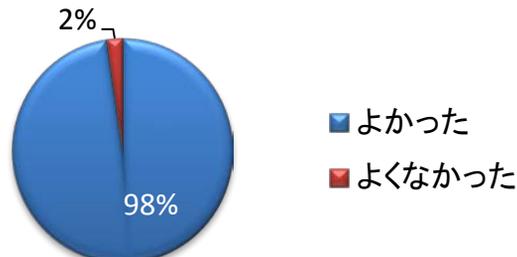
▼体験喫食



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：215人）

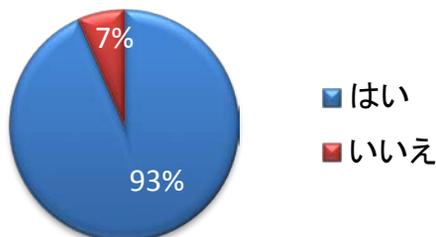
問 地震・津波防災訓練に参加してどう思いましたか（回答数：215人）



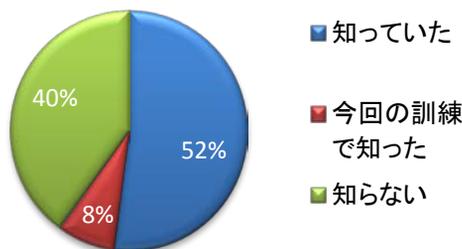
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか（回答数：215人）



問 地震がきたら、まず高いところへ逃げようと思いましたか（回答数：215人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか。（回答数：215人）



訓練の評価

訓練当日は、雪が降る悪天候の中、町民全員を対象としたシェイクアウト訓練の後、北るもい漁協、フェリーターミナルの職員や地域住民を合わせ137名が津波避難訓練に参加した。また、10:00から中央公民館で町民約250名、防災関係機関等の要員約150名の合計約400名が、防災講話や炊き出し及び災害装備品の展示に参加し、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組み防災意識を向上させた。

訓練実施後、内閣府・北海道・羽幌町長の挨拶・訓練講評、参加者のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

この結果、「大変よい訓練だった」、「避難要領が確認できた」という評価の一方で、次のような課題を認識した。

●羽幌町は、防災行政無線が整備されていないことから、消防署のサイレン、

広報車等を使って津波警報を伝達したが、いずれも音が小さかったという意見から、有効な伝達手段・要領を再整備すること。

●当日は悪天候のため、訓練参加者が減少した可能性はあるものの、更に沢山の町民を参加させるべきとの意見から、引き続き町民の防災意識を高揚・啓蒙する防災施策の充実を図ること。